

自己評価による自己点検・学校関係者アンケートの結果を受けて

(世田谷区立八幡中学校 自己評価報告書)

平成 22 年 1 月 19 日

I 分掌の課題と解決に向けての取組

1 教務

(1) 学習指導について

ア 「授業の開始・終了時刻を守って授業している」の項目では、教員も否定的評価があったことから、今後の取組として、時間を守る努力をしていきたい。1分を大事にするよりも評価が上がったのは、努力の成果であったと思う。

イ 通知表の評価は納得できるについても、昨年度より肯定的評価が上がっていることから、今後も資料に基づき適正に行っていく。

評価を適正に行っているにもかかわらず、納得できない生徒がいることは理解している。説明責任は果たしていく。

(2) 学校行事について教員は100%意欲を大事にした指導をしているが、生徒はもっと意欲的に活躍したいと考えるようだ。制約が多い中では限界があるかもしれないが、今後も意欲を伸ばす努力を重ねていく。

2 生活指導

(1) 本校では社会のルールを守ることについて子どもたちに指導していることについては評価してもらっている。しかし、子どもたちの行動に結びついていないという評価を受けた。このことは次年度以降も課題と考える。

(2) 問題行動に関して教員が適切な指導をしていないという生徒の否定的評価が高かった。指導を受ける生徒のみならず、周囲の生徒に対しても指導が行われている。学年集会、学活、道徳などの機会を通し、さまざまな指導が行われていることを明らかにし、不公平感になるべく残らないようにしていく。

(3) 独自項目の読書について生徒に否定的な評価が多い。実態としては落ち着いた雰囲気がある。評価項目の在り方、PRの在り方を検討する必要がある。

(4) 通学路の安全の点検活動について否定的な意見が多くあった。自己評価でも否定的な評価がある。登下校についての指導を検討したい。

3 進路指導

(1) 進路についての情報提供については肯定的評価も向上したもの、否定的評価も多く見られた。昨年度、今年度と情報提供についての進路便りや進路便りJrを発行しているが、知りたい情報と合っているかは調査する必要がある。

(2) 来年度に向けて、①本年度と同様の取組を継続して行う、②内容が良くないのではなく、伝え方を工夫する、③全体にむけて伝えながら、より個を意識して伝えていく。そのために、配布物の提示の仕方を工夫する、学校便り・学年便りを活用して授業などの取り組みをする、二者面談や三者面談で進学的话题を取り上げるなど実施していく。

4 保健・給食

- (1) 健康管理、健康観察についての教員の肯定的評価は高い。今後も引き続き行っていく。
- (2) 食育に関する評価は、教員、保護者とも高くない。給食での指導の難しさもあるが、教科の学習などと合わせ、全校的な指導の中で改善していく。

Ⅱ 学年の課題と解決に向けての取組

1 1年 全項目について検討した

(1) 学習指導について

ア 授業をとおして学力が付いているかとの問いに対し、保護者はどの程度の期待をもってこの評価をしているのかがわからない。今までと同様、努力を続ける。

イ 黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい指導をしているとの問いに対し、教員は意識が高い。プリントを整理できない生徒や板書を写すのに時間がかかる生徒がいる。さらに実態を意識してプリントを精選する、板書事項を生徒が理解しているかを確認するなど工夫を重ねる。

ウ 授業の開始・終了時間を守って授業をしているという問いに対し、授業が続く場合、教室に行くことが遅れる場合がある。授業準備を早めにしておくなどして気を付けていく。

(2) 生活指導について

誰かが学校の決まりを守らないとき先生は注意しているかとの問いに対し、全体場で注意しなくても、指導していることがあるが、このことに気付かず、誤解している生徒もいると思われる。常に全体場で注意することは難しいが、生徒が不公平感を感じていることは意識するとともに、生徒たちに「みんなが見えないところでも注意していることがある」ことを伝える必要はある。

(3) 学校行事について

生徒の肯定的評価も悪くなく、おおむね良好であると考ええる。

(4) 進路指導について

先生と相談する機会が十分あるという問いに対し、生徒一人一人と具体的な卒業後の進路について話し合う場面がない。1年としては問題ないと考えるが、2, 3年になったときのことを考えると、放課後生徒たちと話をする物理的な時間の不足が予想される。

(5) 教職員について

先生は誰に対しても公平であるという問いに対し、49%がCD評価をしている。さまざまな生徒がいるため、すべての面において公平な指導は困難である。また「自分ばかり注意される」と話す生徒が不公平感をもっていることは把握している。生徒が何を不公平と感じているのか把握する必要がある。道徳などで、どのようなときに不公平さを感じるかなど振り返りをさせる。また、表現に注意したい。

(6) 広報活動・情報提供について

各種たよりやHPはかなり充実してきたと思うが、HPについてE評価が36%であった。もう一度HPについて、内容や頻繁に更新されていることを紹介するとよい。

(7) 学校全般について

ア 学校が楽しいという間に14%がCD評価であるが、2学期最後の反省とともに実施したアンケートでは4名の生徒が「楽しくない」と答えた。面談で確認すると「なんとなく」ということであった。アンケートを取るタイミングによってもなかなか100%にはならないかもしれない。100%を目指す方向で指導を続ける。

イ 朝の読書活動は、実態として大変落ち着いている。読書と気持ちを落ち着かせるとは結びついていない。

ウ 進路便りで進路について考えることができるという間に対し、46%がCD評価である。進路便りJrの発行回数が少ないこと、進路＝進学という意識の生徒がいる。配布しっぱなしということから、できれば一緒に読む、発行回数も増やすように努める。

エ 学級や学年がまとまってきているという間に対し、27%が否定的評価であるが、行事の作文などによるとまとまってきたと考える生徒が多い一方、もっとできたのにと厳しく評価している生徒も多いためと考える。今後に期待し、指導を続ける。

2 2年 肯定的評価の特に低い項目について検討した

- (1) 授業の開始・終了時間を守っているかは、開始と終了を分けてアンケートを取ってみたい。休み時間は廊下を巡回しており、ほとんどの授業の開始時間は守られている。教科により、生徒の移動が遅く、授業の開始が遅れることがある。現在の取組を持続していく。
- (2) 進路に関する情報提供と、将来の生き方について先生と相談する機会があるとのことについて、生徒は職場体験などのキャリア教育を進路指導と結びつけていないと思われる。今後も生き方を見つける指導をしていき、進路指導であることを伝える努力を継続する。
- (3) 先生は誰に対しても公平であるについて、個人差のある生徒への対応が不公平に感ずることはあると思われる。道徳や特別活動を通し、個人差と公平さについて深く学ばせていきたい。半数が不公平と感じている原因についても探していきたい。

3 3年 肯定的評価の低い項目及び評価できる項目について検討した

(1) 進路指導について

本校では進路について十分な情報が提供されているかについて肯定的な評価は高い。しかし塾との比較で、偏差値や校内順位の情報を聞きたがっている。そのよう

な情報が提示されていないため否定的評価もある。学校が提供できる情報に限りがあること、偏差値や校内順位の情報が無い進路指導であることを理解してもらう。

(2) 先生について

公平ではないという否定的な意見が46%ある。このことについて、対応の違いは当然あるため、個人個人がわかる説明をしていきたい。「先生はよく話を聞いてくれる」の項目で肯定的評価が高くなっている。今後も指導を継続していきたい。

(3) 重点項目について

保護者、生徒とも肯定的評価が高くなってきている。

4 C組 自己評価は関連する項目について検討した

(1) 地域との連携について、C組では学習ボランティア等地域の援助と協力を得ることで、活動の幅が広がり、より充実した学習活動を実践することができるようになった。大変ありがたい。今後も地域との協力関係を構築していきたい。

(2) 特別支援教育の校内体制について、校内の運営委員会と連動し、学年を超えて話し合い、対応できる体制が取られている。しかし、教員全体に向けて周知されていないことが指摘されている。各教員への周知を徹底したい。また、特別支援学級の生徒だけでなくサポートが必要な生徒への対応についても学級として取り組んでいきたい。

(3) 教育機関との連携では、必要に応じて関連機関との連携を図っている。特別支援学級からも必要な情報を提供し、連携がスムーズに行えるよう取り組んでいく。

Ⅲ 学校の課題と解決に向けての取組

1 地域とともに子どもを育てる教育

(1) 肯定的評価が高いが、地域・保護者は「わからない」が多かったことから、引き続き広報活動を進める。また、情報発信について、地域との評価の開きがあり、さまざまな機会を通して広報活動を図っていく。

2 信頼と誇りの持てる学校づくり

(1) 学校運営・学校経営に関して、教員の肯定的評価は高い。また、校長のリーダーシップを高く評価している。今後も校長のリーダーシップのもと、さまざまな教育活動に対し、迅速に対応を進める。

(2) 教職員の服務規律や相互の関係など、肯定的評価は高い。安全管理について、やや否定的な評価も見られる。特に学校外での肯定的評価が低くなる傾向があり、地域との連携を深める努力を図る。

(3) 出納・経理、文書・情報管理については肯定的評価のみで、説明責任に堪えられる学校運営となっている。今後も着実に執行していく。

3 教育環境の整備

自己評価では肯定的評価が高い。しかし、地域・保護者の評価との開きがあることから、開きを埋める努力をしていく。